

### ③飛騨の里-5 飛騨の里・景色

飛騨は、谷筋が違ふと雪の質、量も違ひ、また太平洋側と日本海側では雪の量が全然違ふ。そのため同じ飛騨の中でも、建物や冬のソリなどの民具の形が違ひ、全国的にみて大変珍しい風土である。

昭和 34 年、白川村の御母衣ダム建設に伴ひ、古い合掌造り建物の若山家が高山に移された。貴重な建物である若山家を高山へ移して「飛騨民俗館」として出発、管理人には長倉三朗を委嘱した。その後、若山家の隣には片野町からクレ葺屋根の野首家(江戸時代)、桐生町から高山測候所(明治 36 年)などを移築している。

昭和 44 年、当時の元仲辰郎市長は観光資源の開発に大きな夢を託し、民俗館の西方に「飛騨の里」建設計画を議会にはかり建設をすすめた。場所は、戦国時代の山城・松倉城のふもとで、昔からあつた農業用溜池ためいけはそのまゝにし、山林を切り開いて三万坪の用地に民家を移築することにした。

合掌造りや板葺屋根の民家 18 棟が飛騨各地から集められ、昭和 46 年 7 月に 1 億 9,600 万円をかけて完成した。今、これらの民家を集めようと思つても不可能である。質の高い農村文化を集めた飛騨の里は、全国に先がけたもので、高山の大きな観光資源になつた。